



▲『御所のお庭』の舞台演舞の様子

シンポジウムでは、新城麓に伝わる郷土芸能『御所のお庭』が披露されました。『御所のお庭』は、江戸後期に検校と呼ばれた盲目の地歌音楽家たちによって生み出された上方端歌のひとつで、全国各地多くの替え歌が作られています。新城麓に伝わるものは、ほぼ原曲に近いもので、芸能文化史を語るうえで重要な歌謡です。しかし、踊り子が年々減少し、今では、わずか4人と



▲シンポジウムの内容を動画で配信中です！

なっています。今回は、市内から踊り子を募集し、9人から伝統の踊りを披露しました。その他、本市で取組まれている『千本イチョウと日本遺産「麓」祭りについて』の事例発表もありました。また、シンポジウムと同時に開催で東川隆太郎氏（かごしま探検の会代表）による『垂水麓の町割りをめぐるまち歩き』と垂水史談会による『垂水島津家墓地ツアー』が開催されました。

▲有馬主事補（入庁1年目）文化行政の業務等に従事

は、貴重な経験となりました。文化には、必ず背景があり、紡いできた歴史があります。麓文化を継承する保存会の方々と関わることで、強い思いと行動力が、次世代へと繋がるきっかけになると感じました。魅力、郷土芸能を継承するために取組を続けられることは、とてもエネルギーを使います。しかし、それ以上の魅力が麓にはあります。

薩摩の武士が生きた町

シンポジウム



日本遺産「薩摩の武士が生きた町」魅力発信推進協議会では、地域の歴史や伝統文化の魅力を知ってもらおうと、県内の麓を有する地域でイベントを開催しています。ここでは、2月初旬に、垂水市にて無観客で開催されたシンポジウムの内容を紹介いたします。

垂水麓の名所を巡る



現在でも、垂水麓には林之城跡地に残るお長屋と石垣を中心に、多数の建造物、文化財などが残っており、当時の面影を色濃く残しています。ここでは、皆さんに訪れていただきたい貴重な文化財を紹介します。

垂水島津家墓所

垂水島津家墓所は島津家の菩提寺であった心翁寺の一部です。（心翁寺は明治時代の廃仏毀釈でなくなりました）現在は、佐土原藩主となった第2代以久を除く歴代の当主の墓碑があります。また、令和2年3月より「薩摩藩主島津家墓所」を構成する1つとして、垂水市では初めての国指定史跡となっています。

お殿加神社

垂水小学校の裏手にある城山の中腹に位置しています。祭神は垂水島津家の祖である忠将で、永禄8（1565）年に子の以久が父のために国分の清水に建立したのが始まりです。寛永2（1625）年に島津久信によって垂水郷内に再興され、後に現在地に移設されました。当時、麓の武士たちの信仰を集めました。

文行館・詩文集

文行館は、第10代貴澄によって、士族の子弟の教育のために設立されました。講師として讃岐の乾徹猷や高崎の市川鶴鳴らの学者を招き、その充実に努めたとされています。また、貴澄は漢詩や和歌への造詣が深く、家臣らも彼の影響を受け、貴澄の漢詩集『廢麓詩稿』、和歌集『浪の藻屑』などが刊行されました。



▲『垂水島津家墓地ツアー』の様子

担当者が感じる魅力

郷土芸能を踊る機会や、垂水麓で江戸時代の和歌の翻字をするなど、麓の文化に関わる機会が多くありました。その時代の文化に触れ、当時の教養の高さや芸術への関心を知ることができたことは、貴重な経験となりました。



▲垂水市文化会館に保管されている漢詩集等

